

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F113310102859	設置等組織名	情報科学芸術学部情報科学芸術学科
大学名	跡見学園女子大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京	事業計画名	跡見学園女子大学情報芸術学部新設計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		1-① 令和6年4月～ 情報芸術学部の設置認可申請のための準備委員会の設置及び会議の開催 1-② 令和6年4月～ 情報芸術学部の学生確保のための市場調査の実施 1-③ 令和6年4月～ 情報芸術学部と連携する大学との交渉の実施 1-④ 令和6年4月～ 情報芸術学部と連携する地方公共団体との交渉の実施 1-⑤ 令和6年4月～ 情報芸術学部と連携する企業との交渉の実施 1-⑥ 令和6年6月下旬～令和7年1月下旬 情報芸術学部の設置認可申請に向けた大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会への事前相談(3回を予定) 1-⑦ 令和6年6月～ 受験生向けオープンキャンパス・高校訪問など広報活動の開始	1-① 令和6年4月～ 情報科学芸術学部の設置認可申請のための準備委員会の設置及び会議の開催（R7.3.31承認） 1-② 令和6年4月～ 情報科学芸術学部の学生確保のための市場調査の実施（R7.3.31承認） 1-③ 令和6年4月～ 情報科学芸術学部と連携する大学との交渉の実施（R7.3.31承認） 1-④ 令和6年4月～ 情報科学芸術学部と連携する地方公共団体との交渉の実施（R7.3.31承認） 1-⑤ 令和6年4月～ 情報科学芸術学部と連携する企業との交渉の実施 1-⑥ 令和6年6月下旬～令和7年1月下旬 情報科学芸術学部の設置認可申請に向けた大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会への事前相談(2回) 1-⑦ 令和6年6月～ 受験生向けオープンキャンパス・高校訪問など広報活動の開始	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
				令和7年3月に情報科学芸術学部の設置認可申請書を提出しており、予定通り計画を達成できた。	
				○年度自己評価	リストから選択してください。
	フェーズ2 前倒し	2-① 令和7年1月～ 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）新築着工（〔小日向校地〕・令和8年1月竣工予定）	2-① 令和7年1月～ 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）新築着工（〔小日向校地〕・令和8年1月竣工予定）（R7.3.31承認）	○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出		令和6年4月 収容定員の総数の変更（既存他学部入学定員数を160名減） 届出予定 令和7年3月 情報芸術学部情報芸術学科 認可申請予定	令和7年3月 情報科学芸術学部情報芸術学科 認可申請（R7.3.31承認） 令和7年3月 認可申請書類の中で収容定員の総数も変更（既存他学部入学定員数を485名減）（R6.10.4承認）（R7.3.31承認）		
フェーズ1 後倒し		1-① 令和6年から継続 情報芸術学部の設置準備委員会の継続開催 1-⑦ 令和6年から継続 受験生向けオープンキャンパス・高校訪問など広報活動の継続	1-① 令和6年から継続 情報科学芸術学部の設置準備委員会の継続開催（R7.3.31承認） 1-⑦ 令和6年から継続 受験生向けオープンキャンパス・高校訪問など広報活動の継続	○年度自己評価	リストから選択してください。
	フェーズ2	2-① 令和7年から継続 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）建設〔小日向校地〕 2-① 令和8年1月 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）竣工〔小日向校地〕 2-② 令和8年2月～3月 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）備品整備	2-① 令和7年から継続 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）建設〔小日向校地〕（R7.3.31承認） 2-① 令和8年1月 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）竣工〔小日向校地〕（R7.3.31承認） 2-② 令和8年2月～3月 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）備品整備（R7.3.31承認）	○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和8年4月 情報芸術学部開設、情報芸術学科定員増（入学定員100名、工学関係）	令和8年4月 情報科学芸術学部開設、情報科学芸術学科定員増（入学定員80名、工学関係）（R7.3.31承認）		
フェーズ2 後倒し			2-① 令和8年6月～ 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）新築着工（〔小日向新校地〕（R7.3.31承認） 2-① 令和9年12月 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）竣工〔小日向新校地〕（R7.3.31承認） 2-② 令和10年1月～2月 情報芸術学部設置のため研究棟（教授室・研究室・ギャラリー）備品整備（R7.3.31承認）	○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3		3-① 令和8年6月 大学1年生への入学後調査の実施（毎年継続的に実施し、入学者動向を分析） 3-② 令和8年6月～ 受験生向けオープンキャンパス・高校訪問など広報活動実施（毎年継続的に実施） 3-③ 令和8年8月～ 教学マネジメント関連の研修への参加（毎年継続的に実施） 3-④ 令和8年10月 大学1年生向けの基礎力測定テスト（PROG）の実施（毎年大学1年生を対象に実施） 3-⑤ 令和8年10月 大学全体のFDの実施（毎年継続的に実施） 3-⑥ 令和10年10月 大学3年生向けの基礎力測定テスト（PROG）の実施（毎年大学3年生を対象に実施） 3-⑦ 令和10年8月 連携企業へのインターンシップの実施 3-⑧ 令和12年3月 卒業時アンケートの実施		○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止		令和6年4月 他学部160名減員に係る届出予定 令和10年3月 情報芸術学研究科 前期博士課程 認可申請予定	令和7年3月 認可申請書類の中で収容定員の総数も変更（既存他学部入学定員数を485名減、以下3学科を含める） 令和7年3月 文学部コミュニケーション文化科学科学生募集停止の報告（入学定員110名、編入学定員-、文学関係） 令和7年3月 マネジメント学部生活環境マネジメント学科学生募集停止の報告（入学定員80名、編入学定員-、経済学関係） 令和7年3月 観光コミュニティ学部まちづくり学科学生募集停止の報告（入学定員80名、編入学定員-、社会学・社会福祉学関係） 令和8年度 既存他学部減員予定（入学定員数を485名減（以下3学科を含める）） 令和8年度 文学部コミュニケーション文化科学科学生募集停止（入学定員110名、編入学定員-、文学関係） 令和8年度 マネジメント学部生活環境マネジメント学科学生募集停止（入学定員80名、編入学定員-、経済学関係） 令和8年度 観光コミュニティ学部まちづくり学科学生募集停止（入学定員80名、編入学定員-、社会学・社会福祉学関係） 令和10年3月 情報科学芸術学研究科 前期博士課程 認可申請予定（R7.3.31承認）		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	跡見学園女子大学
-------------	-------	-----	----------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td><td></td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	申請時における令和5年5月1日時点の収容定員充足率は93.1%であったが、令和6年5月1日時点の収容定員充足率は76.5%となってしまった。情報科学芸術学部の設置認可申請を令和7年3月に行ったため、計画は未達成となっている。しかしながら、令和8年度以降は、既設学部の入学定員を半減し、総収容定員充足率80%以上を確保すべく計画を進めている。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	跡見学園女子大学
-------------	-------	-----	----------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.情報芸術学部では、DXや地方再生事業に係るエンターテインメント等、幅広く事業展開をしている【株式会社バソナグループ】と連携してデータサイエンス分野やデジタルアート分野における実例を実地に学ぶことに加え、音響映像関連に名高い【ソニー株式会社パーソナルエンタテインメント事業部】、映像制作に実績のある【株式会社いまじんホールディングス映像事業部】と連携して音響映像制作の現場におけるインターンシップやPBLを通じて当該分野の社会的活用を実体験することにより、教育効果を高める計画である。これらの連携企業は、フェーズ1において、学生の収容定員に必要なかぎりて数多く集める予定である。 b.文理融合型の芸術創造に関する研究による新たな価値創造を目指している【東京大学芸術創造連携研究機構】と連携し、データサイエンス分野とデジタルアート分野を併せ持つ教育課程を編成し、時々刻々進展する技術革新の先駆けとなる知見と実践力を持つ学生の養成を目指す。また、保育士養成課程（本学はこれを有しない。）のある近隣の【貞静学園短期大学】と連携し、幼児の造形表現力向上を目指したデジタルアートの開発と実践を行い、本学園及び貞静学園の所在する文京区茗荷谷地域を「デジタルアートの拠点」となることを目指す計画である。	a.DXや地方再生事業に係るエンターテインメント等、幅広く事業展開をしている【株式会社バソナグループ】と連携してデータサイエンス分野やデジタルアート分野における実例を実地で学べるよう、必修科目「インターンシップ」の受入先の承諾を得た。【株式会社バソナグループ】以外の自治体や企業との連携も協議・検討をしたが、【株式会社バソナグループ】のみで入学定員80名の受入が可能となったため、令和6年度は【株式会社バソナグループ】のみとの連携に留まっている。 b.関連分野に強味を持つ地域の他大学等との連携については、検討のみでまだ具体的な交渉には至っていない。しかしながら、東京大学大学院に所属するデータサイエンス分野の第一人者や、前金沢21世紀博物館館長であるメディアアート分野の第一人者の協力が得られたため、データサイエンス分野とメディアアート分野を併せ持つ教育課程を編成することができた。	a.株式会社バソナグループとの連携のみに留まったため、ソニー株式会社パーソナルエンタテインメント事業部や株式会社いまじんホールディングス映像事業部との連携も目指し、交渉を進める。 b.東京大学芸術想像連携研究機関等との交渉を早期に具体化させ、文京区茗荷谷地区を「デジタルアートの拠点」になることを目指す。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.b.本学に入学実績のある高等学校（とくに女子高等学校）での説明会、ホームページやSNS、YouTubeなどでの情報発信、本学オープンキャンパスにおいて、データサイエンスやデジタルアート分野の学問的魅力や社会的有用性・必要性を浸透させる広報・行事を展開し、アート領域に特別の力点を置く情報芸術学部の芸術界における優位性を浸透させる。女子大学である本学の情報芸術学部（学士：工学）は、国が求める理系志向女子を輩出することに直接寄与する。入学者選抜では、理系のみならず、文系と自認する女子もアートという原初的なアナログ分野からデジタル分野へと関心と能力を拡張できるように配慮する。すなわち、「数学」「物理」のほか「国語」「英語」も重視し、加えて「芸術」「情報」分野での実績を高く評価し、面接時には新規分野への主体的関心を見極める。 c.併設校である【跡見学園中学校高等学校】のみならず、高大連携事業提携校である【神田女学園中学校高等学校】、隣接する【貞静学園中学校高等学校】などとの教育連携を充実させ、さらに連携校を獲得しつつ、データサイエンスやデジタルアート分野の最新の学問的知見を紹介する出張授業（出前演習）を行うとともに、中等学校教員との共同授業研究会の開催、それに基づいた公開セミナー・公開講座などを実施していく。高大連携事業提携校との関係は、高大連携事業提携会議に進展することを展望する。	a.既設学部とは異なる入学者選抜の科目案を策定し、協議を行った。 b.HP、SNS、Youtube、学内説明会、高校訪問にて広報を行った。また、受験意向調査のアンケートの一環で、情報科学芸術学部のリーフレットを指定校推薦対象の300校に送付し、情報科学芸術学部の周知を図った。 c.跡見学園中学校高等学校との連携協議を行った。	a.令和7年5月までに既設学部とは異なる入学者選抜の科目を確定する。 c.跡見学園中学校高等学校や神田女学園中学校高等学校との交渉・調整を具体化し、出張授業等を行う。

大学名	跡見学園女子大学
-----	----------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	跡見学園女子大学
-----	----------

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	情報科学芸術学部情報科学芸術学科

[illegible]

大学名	跡見学園女子大学
-----	----------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	970	970																	
		入学者数	人	498	472																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	970	970																	
		入学者数(B)	人	498	472																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.51	0.49																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	3880	3880																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	2967	2560																	
		編入学者数	人	1	7																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.76	0.66																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	113,719	122,410	129,079	169,889	167,018	101,487													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	139,502
本事業による助成金の額(F)	千円	1,194,480
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	169,364

特記事項

・編入学定員は、若干名である。
・【4.外部資金の状況（全学）】計画の数字に現物寄付を含めていたため、本シートでは除外したものに修正する。